

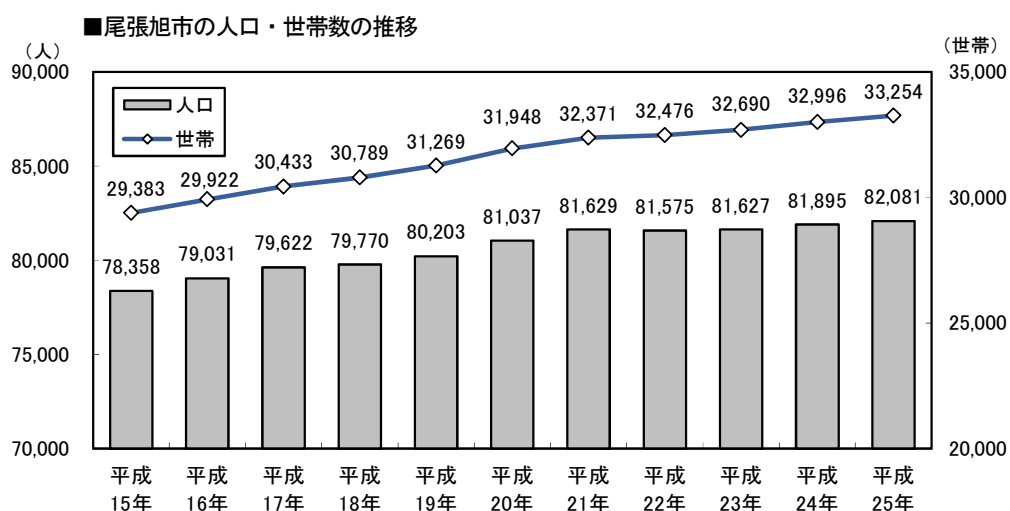
第2章 市民の健康を取り巻く状況

1 統計データからみる尾張旭市の状況

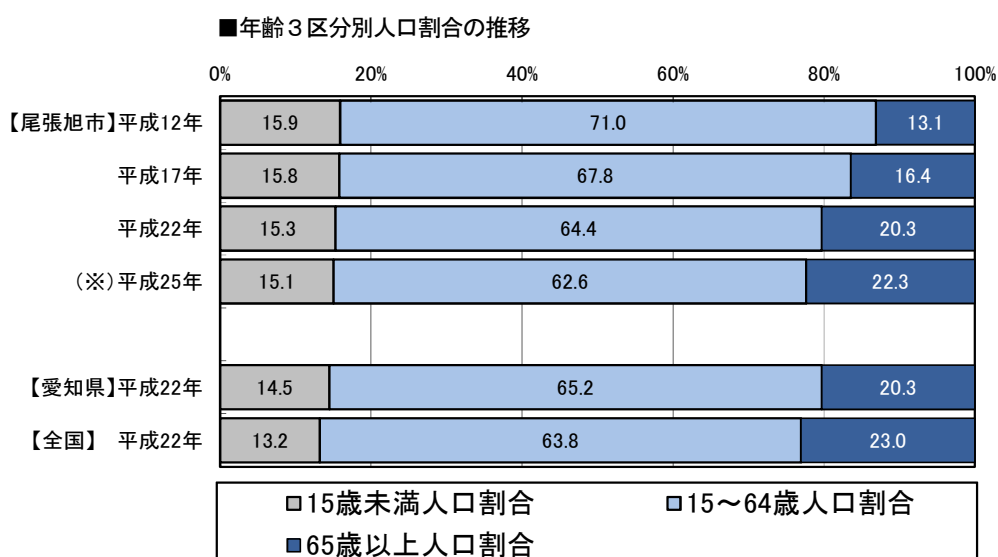
(1) 人口・世帯の推移

尾張旭市の総人口は平成25年10月時点で82,081人、世帯数は33,254世帯となっており、人口、世帯数ともに継続して増加傾向にあります。

年齢3区分別の人口割合の推移をみると、尾張旭市では15歳未満人口割合に大きな変化はありませんが、15～64歳人口割合が減少し、65歳以上人口割合が大きく増加しています。全国、愛知県と比較すると、15歳未満人口割合が高く、65歳以上人口割合が低くなっています。



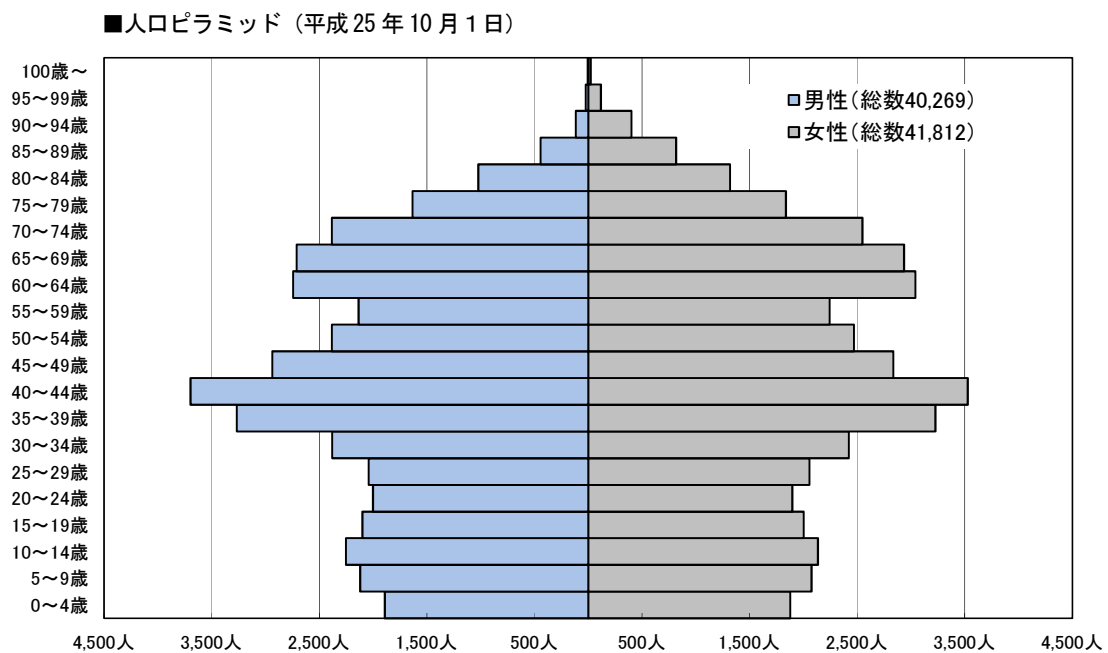
資料：住民基本台帳及び外国人登録（各年10月1日）



資料：国勢調査（※）平成25年のみ住民基本台帳（10月1日）

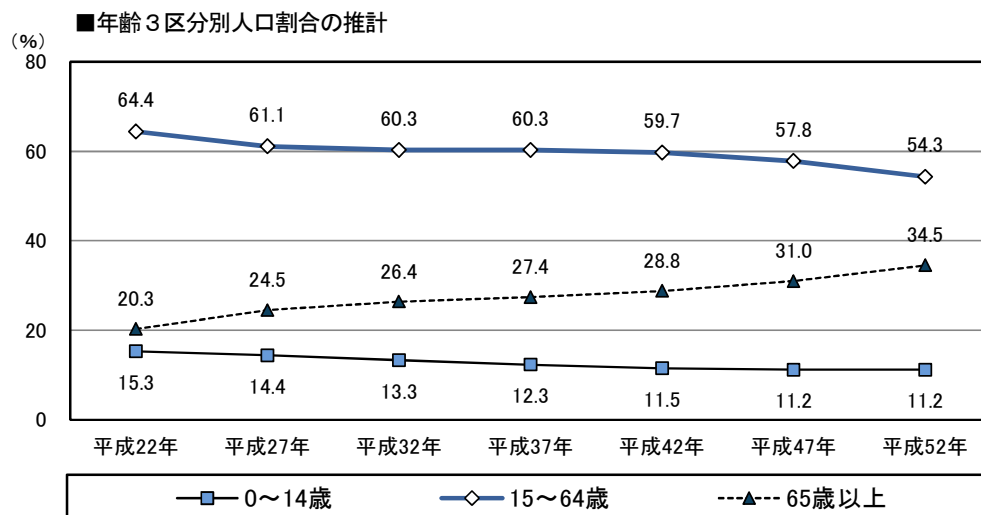
人口は増加傾向にあるものの、近年その伸びは鈍化しています。国や愛知県に比べて、尾張旭市の高齢化率は低い状況ですが、少子高齢化は少しずつ進行しています。

平成 25 年 10 月時点の尾張旭市の人口ピラミッドをみると、60 歳代から 70 歳代前半のいわゆる団塊の世代を含む年齢層と、その子ども世代である 30 歳代後半から 40 歳代の年齢層が多くなっています。



資料：住民基本台帳

尾張旭市の人口推計をみると、平成 32 年には高齢化率が 26.4%となり、市民の約 4 人に 1 人が高齢者となることが予想されています。



資料：国立社会保障・人口問題研究所

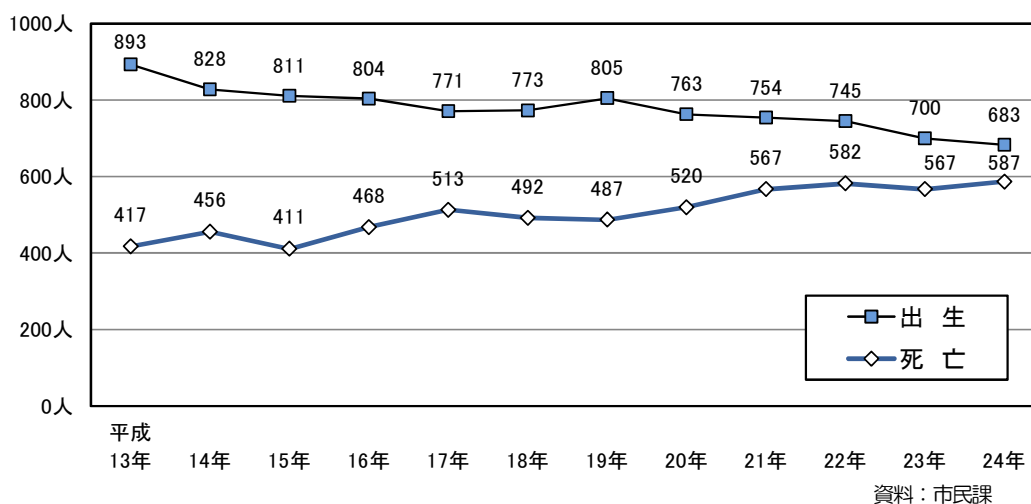
団塊の世代が高齢化することにより、将来的な高齢化率は大きく上昇することが予想されます。また、尾張旭市では 30 歳代後半から 40 歳代の人口が最も多くなっていますが、この世代が健康であり続けることも、将来的に重要なこととなります。

(2) 出生・死亡の状況

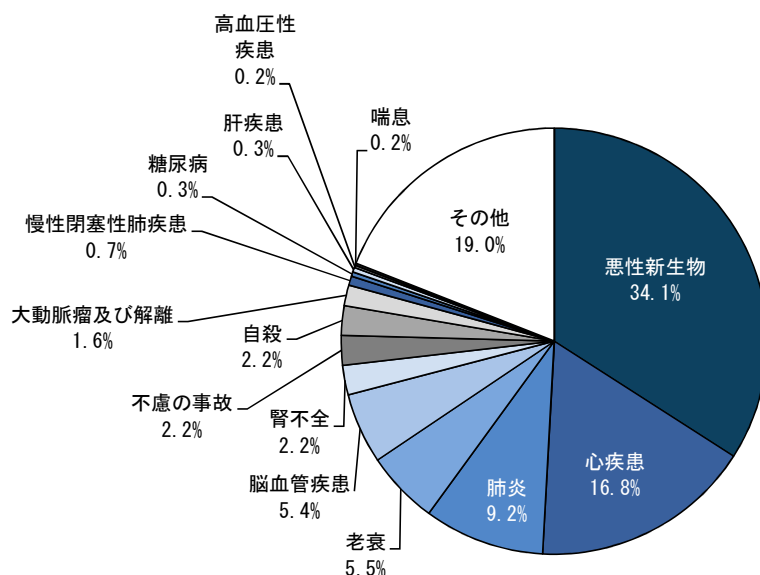
尾張旭市では、出生数が死亡数を上回っており、自然増の状況となっています。出生数は減少傾向にありますが、一方で死亡数は年々増加傾向にあります。

平成 24 年の尾張旭市の原因別死亡者数の割合をみると、「悪性新生物」が 34.1%を占めて第 1 位となっており、その他「心疾患」「肺炎」「老衰」「脳血管疾患」などが上位となっています。

■尾張旭市の出生数・死亡数の推移



■原因別死亡者数の割合（平成 24 年）



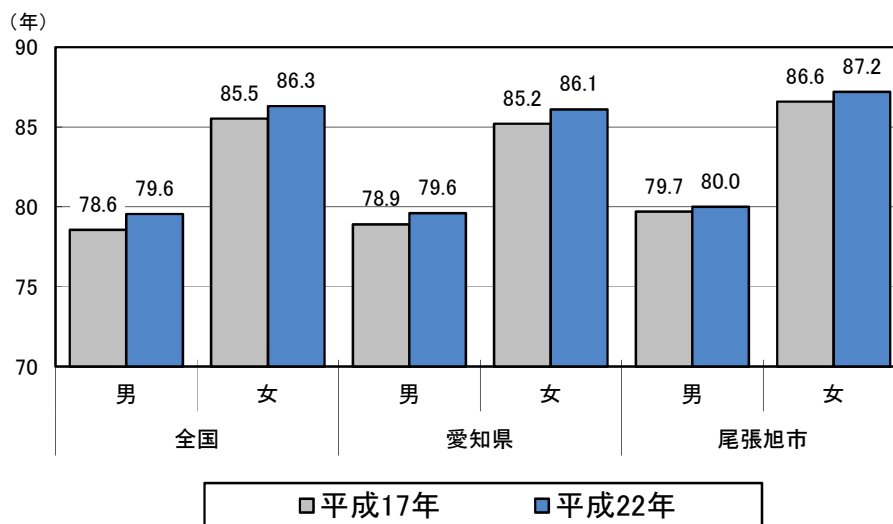
資料：愛知県衛生年報

高齢者が増えたことに伴い、死亡数は増加しています。主な死因の上位は「悪性新生物」「心疾患」「脳血管疾患」といった生活習慣病が多くを占め、これらの予防が重要であることがうかがえます。また、高齢者にとって深刻な病気である「肺炎」での死因も多くなっています。

(3) 平均寿命の状況

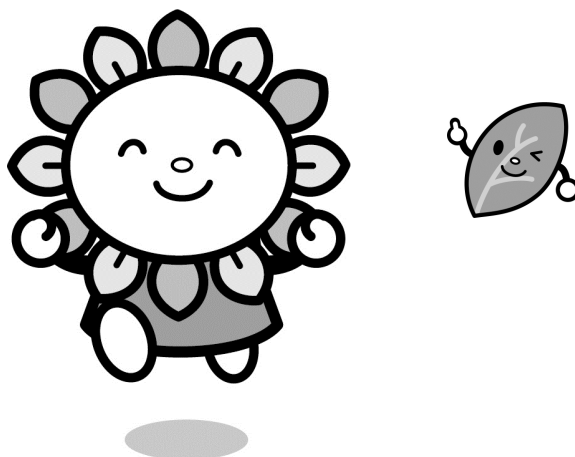
平均寿命は、平成 17 年と平成 22 年を比較して、全国、愛知県、尾張旭市いずれも男女ともに延伸しています。また、尾張旭市の平均寿命は平成 22 年で男性 80.0 歳、女性 87.2 歳となっており、ともに全国、愛知県よりも長くなっています。

■平均寿命の推移（全国、愛知県比較）



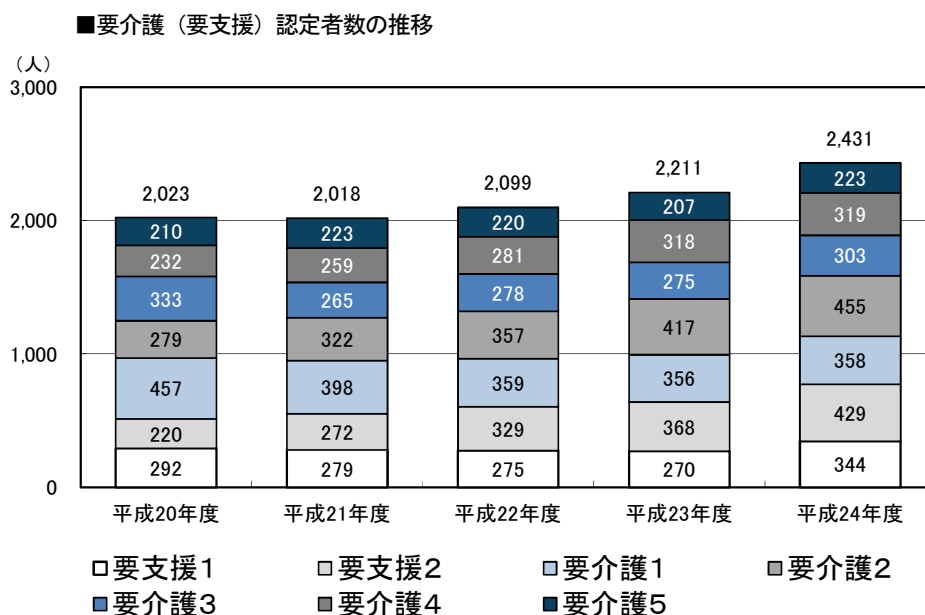
資料：市町村別生命表（厚生労働省）

尾張旭市は、全国や愛知県よりも平均寿命が長くなっています。平均寿命だけではなく、「健康寿命」を伸ばし、健康でいられる期間を延伸させることが重要です。



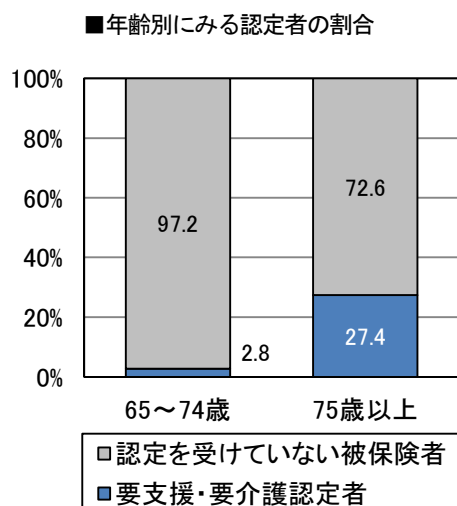
（４）要介護（要支援）認定者の状況

要介護（要支援）認定者数は増加傾向にあり、平成 24 年度で 2,431 人となっています。平成 20 年度と比較して、平成 24 年度の要介護（要支援）認定者数は 1.2 倍となっています。



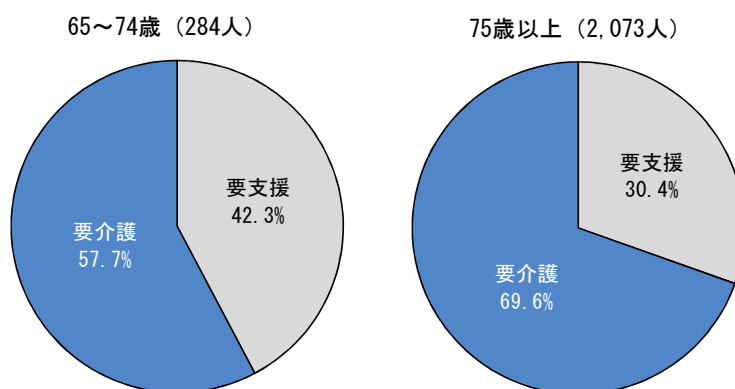
資料：介護保険事業状況報告（各年度末）

年齢別に要支援認定者数と要介護認定者数の割合をみると、75 歳以上で被保険者に占める認定者の割合が高くなり、認定者に占める要介護者の割合も高くなっています。



資料：介護保険事業状況報告（平成 24 年度）

■要支援・要介護認定者数の割合



資料：介護保険事業状況報告（平成 24 年度）

年々、介護が必要な人が増加しています。平成 20 年度と 24 年度を比較して、要支援者は 1.5 倍の増加となり、軽度者が急増しています。また、75 歳以上になると要介護者の割合が高くなるため、さらなる高齢化による後期高齢者の増加に伴い、介護保険給付費も増加するおそれがあります。

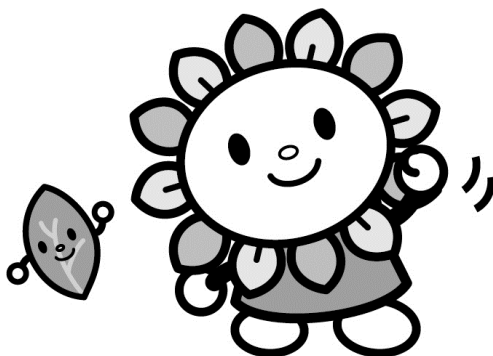
平成 25 年度に、市内の要支援・要介護認定者を対象に実施したアンケートによると、介護が必要になった主な原因として最も回答が多いものは、男性で「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」、女性で「高齢による衰弱」となっています。

■介護が必要になった主な原因（複数回答）

	男性（N=434）	女性（N=859）
第 1 位	脳卒中（脳出血・脳梗塞等） [30.4%（132 人）]	高齢による衰弱 [27.9%（240 人）]
第 2 位	高齢による衰弱 [21.4%（93 人）]	認知症（アルツハイマー病等） [27.0%（232 人）]
第 3 位	認知症（アルツハイマー病等） [19.6%（85 人）]	骨折・転倒 [25.0%（215 人）]
第 4 位	骨折・転倒 [14.1%（61 人）]	脳卒中（脳出血・脳梗塞等） [12.1%（104 人）]
第 5 位	心臓病 [13.4%（58 人）]	その他 [12.0%（103 人）]

資料：尾張旭市高齢者保健福祉及び介護保険に関するアンケート調査（平成 26 年 3 月 長寿課）

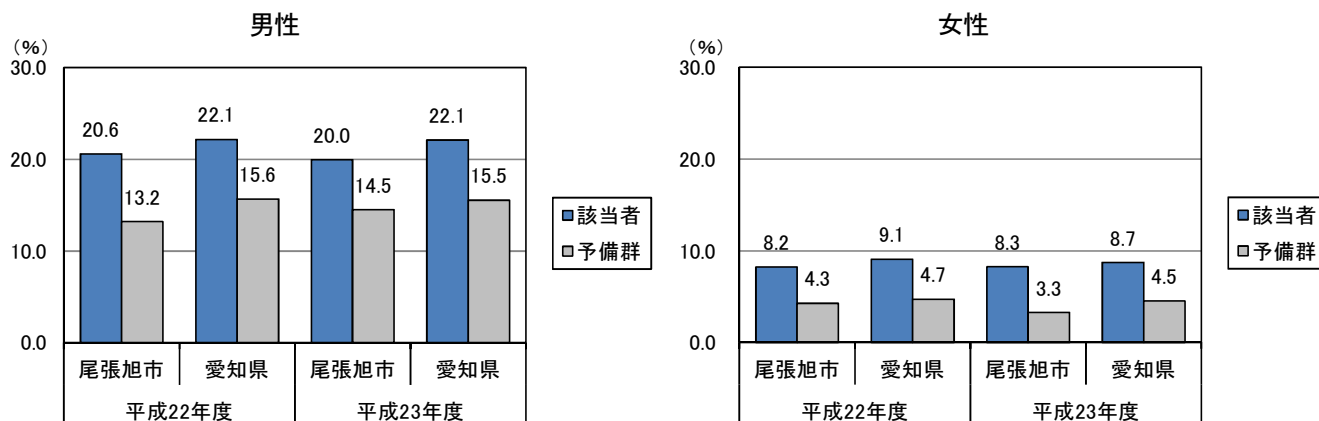
男性では女性に比べて「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」や「心臓病」の割合が高く、生活習慣病が上位となっています。女性では男性よりも「骨折・転倒」が多く、また、男女ともに「認知症（アルツハイマー病等）」の割合が高くなっています。性差に応じた介護予防・健康づくりの大切さがうかがえます。



(5) 生活習慣病等の状況

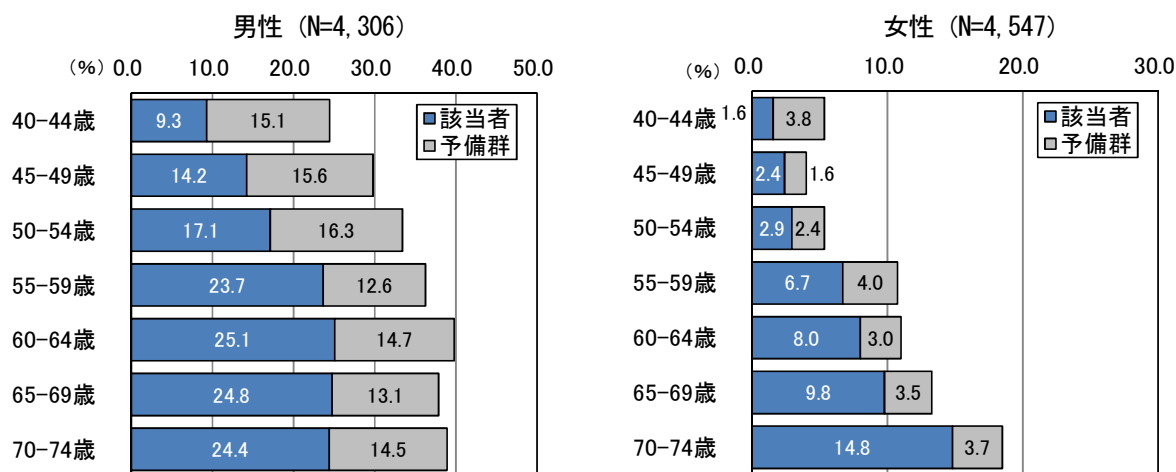
特定健康診査受診者における、愛知県と尾張旭市のメタボリックシンドローム※該当者・予備群割合を比較すると、いずれも愛知県よりも低い傾向にあります。平成23年度の尾張旭市の男女別、年齢別のメタボリックシンドローム該当者・予備群の割合をみると、該当者・予備群はともに、男性で割合が高くなっており、なかでも50歳代後半から該当者の割合が高くなっています。

■メタボリックシンドローム該当者・予備群の割合（愛知県比較）



資料：特定健診・特定保健指導情報データを活用した分析・評価（愛知県）

■尾張旭市のメタボリックシンドローム該当者・予備群の割合（男女別）・平成23年度



資料：特定健診・特定保健指導情報データを活用した分析・評価（愛知県）

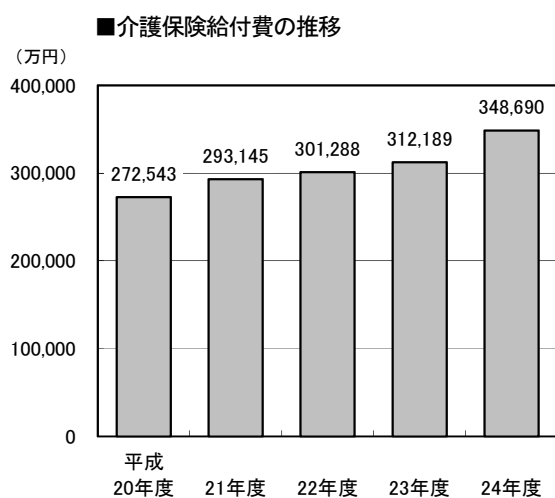
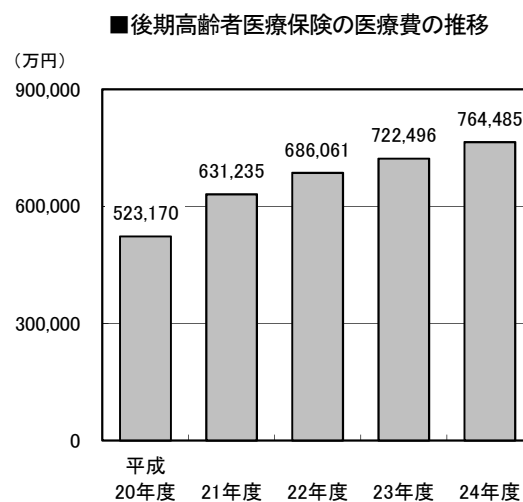
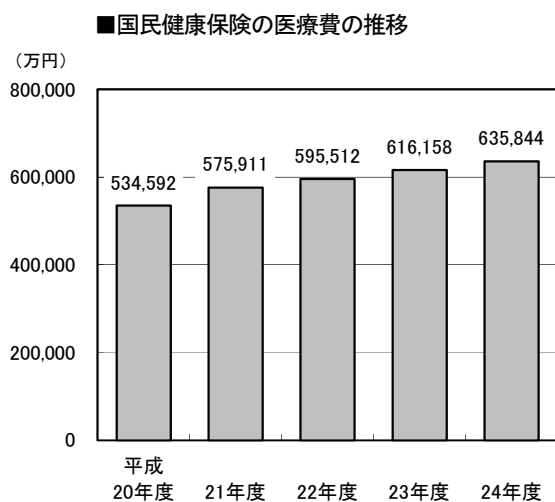
メタボリックシンドローム該当者または予備群の割合は、男女ともに50歳代後半から増加する傾向にあり、男性では4人に1人が該当者となっています。メタボリックシンドロームを予防するための、望ましい生活習慣の定着が必要です。

※メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）

内臓脂肪の蓄積によって動脈硬化の危険因子である内臓脂肪型肥満と高血圧、高血糖、脂質代謝異常などの病態を重複している状態。腹囲が男性85cm以上、女性90cm以上で、3つの項目（高血圧、高血糖、脂質代謝異常）のうち2つ以上の項目に該当する人が「メタボリックシンドローム該当者」、1つの項目に該当する人が「メタボリックシンドローム予備群」となる。

（６）医療や介護の費用の状況

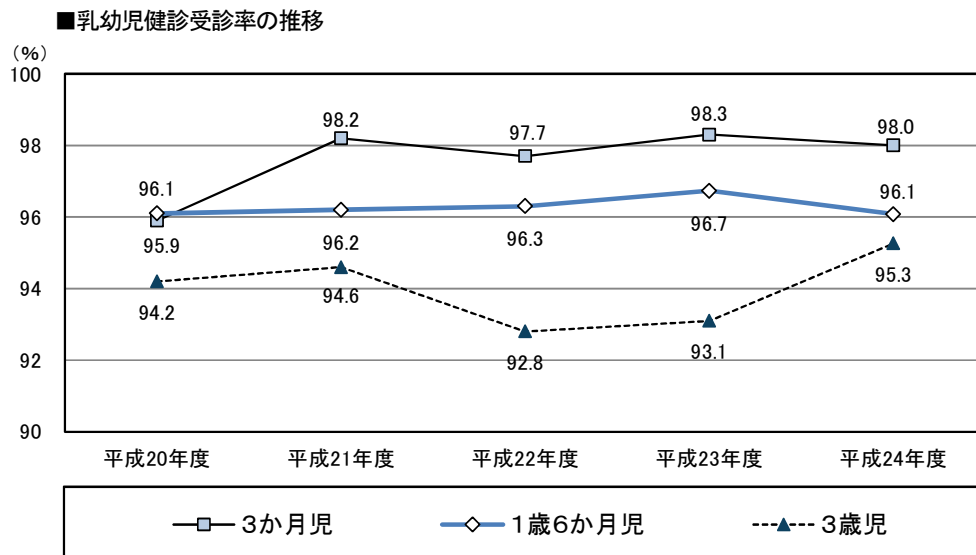
国民健康保険、後期高齢者医療保険における医療費は年々増加しており、平成 20 年度と平成 24 年度を比較して、国民健康保険で 1.19 倍、後期高齢者医療保険で 1.46 倍になっています。介護保険における給付費の推移も同様に増加傾向にあり、平成 20 年度と平成 24 年度を比較して 1.28 倍となっています。



ここ数年で、医療費や介護保険給付費が増加傾向にあり、今後の高齢化によってさらに増加することが予想されます。医療費、介護保険給付費の増加抑制のためにも、若いうちからの健康づくりが非常に重要となります。

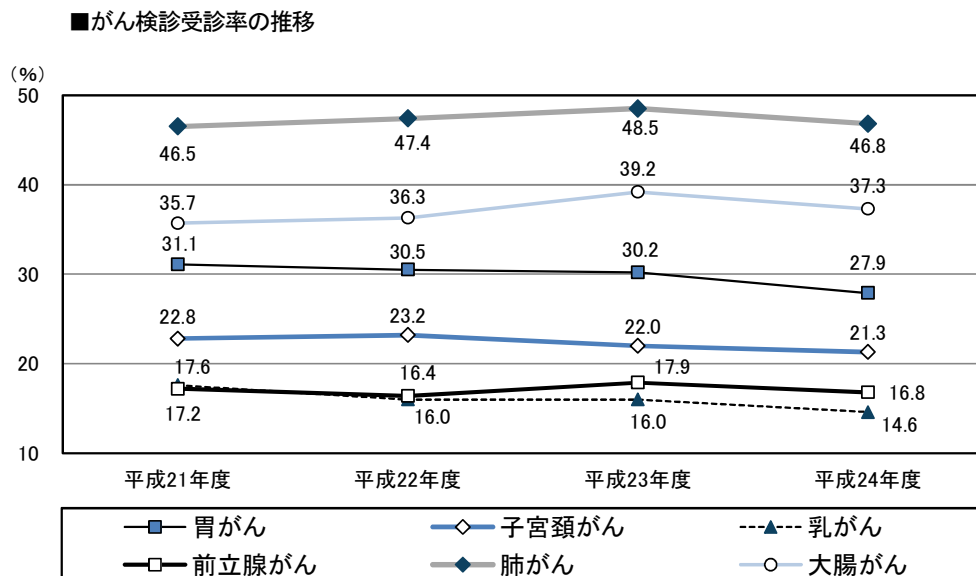
(7) 各種健診・検診の受診状況

3か月児、1歳6か月児、3歳児における乳幼児健診の受診率をみると、3か月児、1歳6か月児においては、各年95%以上の高い受診率で推移しています。3歳児健診でも90%以上となっていますが、3か月児、1歳6か月児と比べてやや低くなっています。



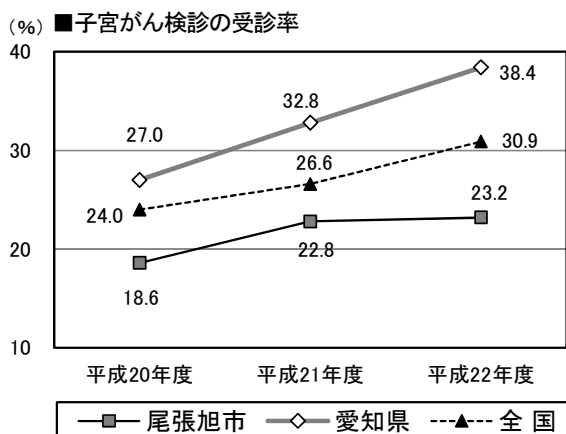
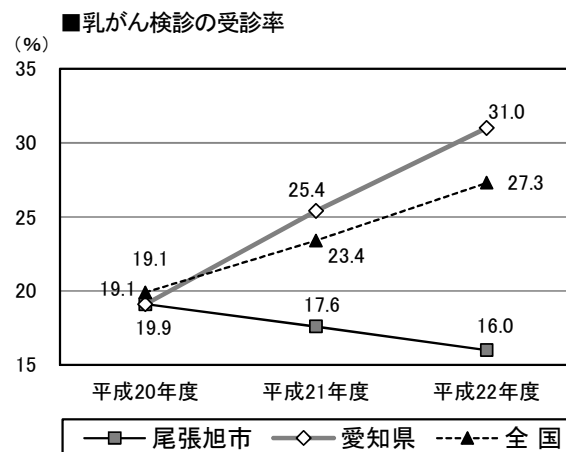
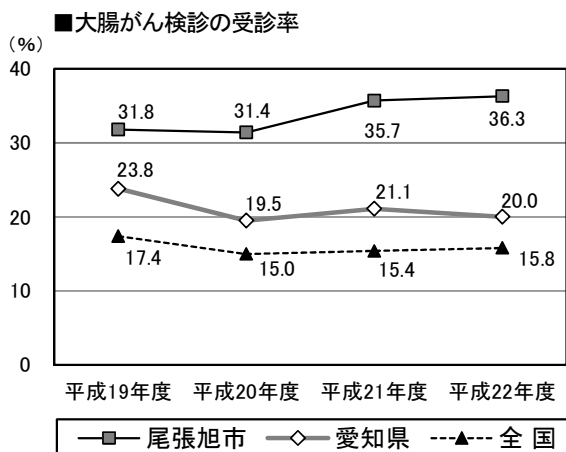
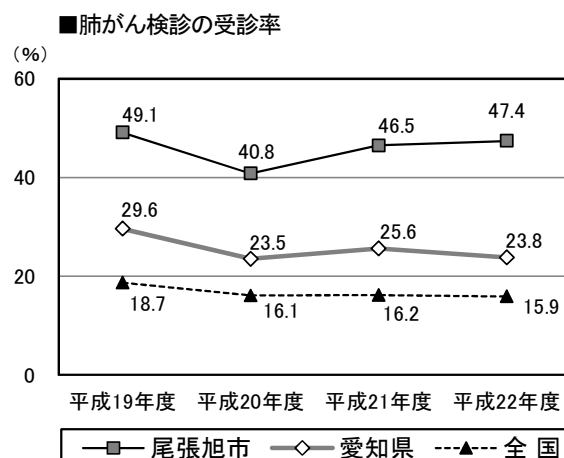
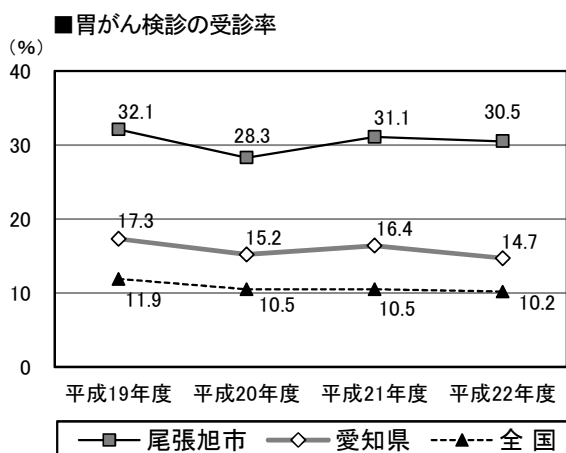
資料：尾張旭市の保健予防活動

各種がん検診の受診率をみると、肺がんの受診率が最も高くなっています。いずれの検診においても、受診率はほぼ横ばいで推移しています。



資料：尾張旭市の保健予防活動

各種がん検診の受診率を全国、愛知県と比較してみると、胃がん、肺がん、大腸がんの受診率は全国、愛知県を大きく上回っています。乳がん、子宮がんといった、女性を対象としたがん検診においては、全国、愛知県よりも受診率が低くなっています。



尾張旭市のがん検診受診率は、全国や愛知県よりも非常に高い値で推移しており、この高い水準を今後も維持していくことが大切です。また、やや低くなっている女性特有のがんに関する検診については、今後も受診を勧奨していく必要があります。

資料：尾張旭市の保健予防活動／地域保健・健康増進事業報告

2 「健康あさひ21」の最終評価結果

(1) 最終評価の目的

最終評価は、「健康あさひ21計画」策定時及び中間評価時に設定した目標について、その達成状況を評価し、その結果を第2次計画の策定や施策の立案に活用することを目的として実施しました。

(2) 最終評価の方法

最終評価は、各種統計データやアンケート調査により得られた結果をもとに、「健康あさひ21計画」で示した9分野の指標について評価を行いました。

策定時（平成16年度策定当初値）、中間時（平成21年度実績値）、最終時（今回の調査等実績値）の経年比較を行い、目標の達成状況を、以下の判定基準により評価しました。

■目標達成度の判断基準

判定区分	基準
★	最終時の値が平成26年度目標値を達成している（達成）
◎	最終時の値が平成26年度目標値の50%以上達成している（改善）
○	最終時の値が平成26年度目標値の50%未満達成している（やや改善）
×	最終時の値が策定時の値よりも悪化または低下している（悪化）

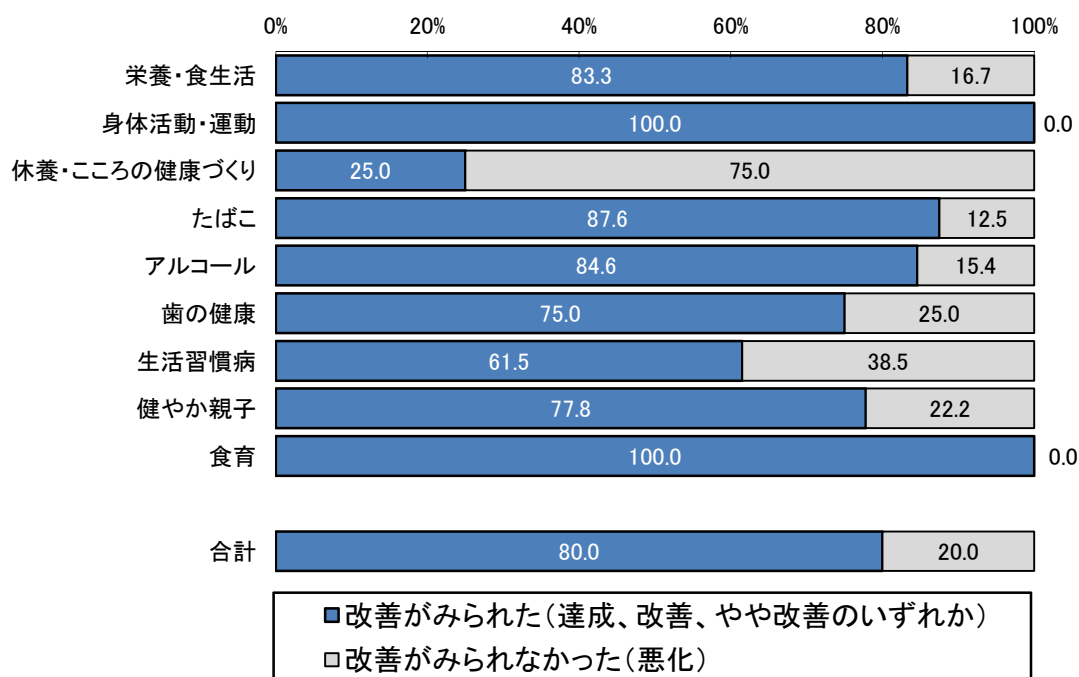
目標値が「増加」「減少」などで設定されている場合は、策定時よりも改善していれば「◎」、悪化していれば「×」として判定しています。

(3) 最終評価の結果

150指標のうち120指標が「★（達成）」「◎（改善）」「○（やや改善）」に該当し、全体の80.0%で改善以上の成果が出ています。特に「身体活動・運動」「食育」「たばこ」「栄養・食生活」の分野では改善以上の割合が高く、成果がみられました。

一方で、「休養・こころの健康づくり」の分野では改善した割合が低く、課題が残りました。

■分野別の評価結果割合



■主な項目の達成状況

	主な項目
★ 達成 (16 項目)	●20～60 歳代女性の肥満者の割合 ●喫煙している人の割合（17 歳男女、中学生男子） ●お酒を飲む習慣のある人（妊婦）の割合 ●定期的な歯科健診を過去 1 年間に受けた人の割合 ●がん検診の受診者の割合 等
◎ 改善 (61 項目)	●朝食を欠食する人の割合（小学生、中学生） ●元気まる測定を知っている人の割合 ●喫煙している人の割合 ●飲酒したことがある人の割合（17 歳、中学生） ●妊産婦・乳幼児健康診査受診率 等
○ やや改善 (43 項目)	●20～60 歳代男性の肥満者の割合 ●意識的に運動している人の割合 ●かかりつけ歯科医を持つ人の割合 ●自分のことが大切に思える人の割合（17 歳、中学生） 等
× 悪化 (30 項目)	●20 歳代女性のやせ過ぎの人の割合 ●睡眠による休養を十分とれていない人の割合 ●健康上 1 日の適度な飲酒量を知っている人の割合 ●糖尿病有病者率 等

